様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３２７１６
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１２９８６

研究課題名（和文）楽譜出版から考える明治・大正時代の洋楽受容

研究課題名（英文）The reception of Western music in the Meiji and Taisho eras and the sheet music publishing

研究代表者
越懸澤　麻衣（Koshikakezawa, Mai）

昭和音楽大学・大学院音楽研究科・講師

研究者番号：１０７５５３７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：主に明治時代から大正時代にかけて日本で出版された楽譜を調査した。楽譜が同時代の音楽文化にどのような影響を与えたのかや、同時代の音楽文化の潮流がいかに出版される楽譜に反映されていたのか、などを明らかにした。
当時の楽譜として知名度が高く重要な役割を果たしたと考えられる「セノオ楽譜」を中心的なテーマとして『大正時代の音楽文化とセノオ楽譜』（小鳥遊書房、2023年）を刊行し、この研究成果を広く公表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
The study investigated music scores published in Japan mainly during the Meiji and Taisho periods. The study clarified how scores influenced the musical culture of the period and how the trends in the musical culture of the period were reflected in the published scores.

研究成果の概要（英文）：The study investigated music scores published in Japan mainly during the Meiji and Taisho periods. The study clarified how scores influenced the musical culture of the period and how the trends in the musical culture of the period were reflected in the published scores.
The results of this research were widely publicised through the publication of 'Taisho Jidai no Ongaku Bunka to Senoo Gakufu' (Taisho Era Music Culture and Senoo Gakufu, Takanashi Shobo, 2023), with the central theme of Senoo Gakufu, which was well known and considered to have played an important role as a musical score of the time.

研究分野：音楽学

キーワード：楽譜　日本における洋楽受容　音楽文化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

「楽譜」は、音楽の普及にとって重要な役割を果たすにもかかわらず、洋の東西を問わず、これまであまり研究の対象とはされてこなかった。それが近年、ドイツを中心に欧米の音楽学では少しずつ研究が盛んになってきている。しかし、日本の楽譜出版事情については、未だに研究が十分とは言えない状況である。

欧米での先行研究における研究方法なども参考にしつつ、私は以前、大正時代に人気を博した「セノオ楽譜」について個別研究を行った。その研究を、明治・大正時代に出版された楽譜へと対象を広げて継続することで、より当時の洋楽受容の様子が明らかになるだろうと考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、明治・大正時代の人々が出版楽譜によって、どのような西洋音楽を知り得たのかを明らかにすることである。

近代の西洋芸術音楽は楽譜を介して伝わる芸術であり、作曲家と演奏者（＝楽譜の購買者）を楽譜がつなぐ。楽譜によってその存在が確かめられ、楽譜が演奏を可能にする。そして供給される楽譜はすなわち、（録音のない時代にあっては）聴くことのできる音楽の範囲を示す。明治・大正時代の日本人には、楽譜を通してどのような音楽世界が広がっていたのか、同時代の文化的な背景のなかで考察する。

３．研究の方法

明治・大正時代に日本に存在していた楽譜出版社について整理する。出版社については、いまだに全体像を見渡せる資料がないため、どれほどの数の出版社が存在していたのか、それぞれの活動期間はどのくらいか、誰が中心に活動していたのか、などの基本的な情報をまとめる。

また、実際に出版された楽譜をなるべく多く確認し、どの出版社からどのような作品が出版されたのかを調査する。

そこから、作曲家や音楽のタイプの傾向、そして同時代の音楽文化の状況（主に演奏会、録音のレパートリー）と比較分析する。

４．研究成果

本研究の成果は、『大正時代の音楽文化とセノオ楽譜』（小鳥遊書房、2023 年）にまとめ、広く世に公表した。本書では、明治・大正時代の日本の楽譜のなかで、もっとも成功し注目を集めたと思われる「セノオ楽譜」を中心に、適宜、その他の出版社の楽譜も引き合いに出しながら論じた。章立ては以下の通りである。

はじめに
第１部　セノオ楽譜、そして竹久夢二とその時代
　第1章　　セノオ楽譜とは
　第2章　　竹久夢二による表紙画の魅力
　第3章　　妹尾幸陽の音楽人生

第２部　セノオ楽譜が伝えた名曲たち
　第1章　　『夜のしらべ』　――三浦環とレコードと
　第2章　　『軍艦行進曲』　――大正時代の軍歌
　第3章　　『歌劇「カルメン」ハバネラの歌』　――帝国劇場、開幕
　第4章　　『歌劇「ボカチオ」恋はやさしい野辺の花よ！』　――浅草オペラの栄枯盛衰
　第5章　　『歌劇「ミニヨン」君よ知るや南の国』　――外国語の「歌」を日本語で
　第6章　　『カチューシャの唄』　――流行歌の誕生
　第7章　　『からたちの花』　――山田耕筰との協同作業（1）山田の歌曲
　第8章　　『荒城の月』　――山田耕筰との協同作業（2）山田が編曲した作品
　第9章　　『ジー線上のアリア』　――日本のヴァイオリン・ブーム
　第10章　『神の栄光』　――日本におけるベートーヴェン受容

本書でも論じたように、日本に西洋音楽が普及していく過程で、楽譜出版は見過ごせない要素

であり、実演（帝国劇場、浅草オペラ、東京音楽学校など）やレコードと密接に結びついていた。また、大正時代に入ると、山田耕筰をはじめ、日本人で西洋音楽の語法を用いて作曲する者も増え、そうした作曲家にとってもセノオ楽譜のような出版社は重要な役割を果たしていた。

本書はすでに、『日経新聞』（2023 年 5 月 20 日）や『音楽の友』（2023 年 7 月号）にて好評を得ている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 越懸澤麻衣	４．巻 50
２．論文標題 新聞記事でたどる日本のベートーヴェン受容: 1927 年のベートーヴェン没後百年祭まで	５．発行年 2022年
３．雑誌名 洗足論叢	６．最初と最後の頁 53-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　3件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 越懸澤　麻衣
２．発表標題 On the Myth of Beethoven and the Titles of his Musical Works: ‘Moonlight Sonata’ in Japan
３．学会等名 Beethoven in a Global Perspective: Online International Music Festival in Commemoration of the 250th Anniversary of the Birth of Beethoven（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 越懸澤　麻衣
２．発表標題 Beethoven’s Piano Music in Japan
３．学会等名 Beethoven the European: International Virtual Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 越懸澤　麻衣
２．発表標題 Beethoven’s Reception in Japan: The Process to Becoming a Popular Composer
３．学会等名 Why Beethoven? Influence and Reception in Asia（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 越懸澤　麻衣
２．発表標題 大正時代に来日した外国人演奏家――エルマンをめぐる動向を中心に
３．学会等名 東洋音楽学会第70回全国大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 越懸澤麻衣	４．発行年 2023年
２．出版社 小鳥遊書房	５．総ページ数 306
３．書名 大正時代の音楽文化とセノオ楽譜	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関